



かわいい子には  
旅をさせよ

まんが

# いとおわざい 事典

深谷圭助先生のまんが国語事典



# ことわざは「小さなカプセル」

ことわざは、どこにでも持ち運びができて、いつでも使える、小さなカプセルのようなものです。

カプセルの数は何万個もあり、なかにはそれぞれ宝物のような言葉が入っています。それは、何か困っている人にぴったりの知恵をさずけてくれる言葉だったり、大失敗してがっかりした人をはげましてくれる言葉だったり、悲しみにくれている人をなぐさめてくれる言葉だったりします。そして、ときには、悪いことをしてしまった人をちゃんとしかってくれる言葉だったりもします。

ことわざの多くは、人々の生活の中から生まれ、古くから言い伝えられてきた言葉です。そのため、昔の人々が経験し、はぐくんできた生活の知恵や発見、人生の教え、いましめなどが、短く印象的な言葉の中にぎゅっとつめこまれています。難しい本を読まなくても、ここぞというときにぴったりのことわざを思い出すだけで、先輩たちの奥深いアドバイスがいただけるというわけですから。しかも、その先輩たちは、ときどき、わたしたちにやさしい言葉をかけてくれたり、おおいに笑わせてくれたりもします。



たとえば、「頭かくして尻かくさず」ということわざがあります。自分ではうまくかくしているつもりでも、実際にはかくしきれないという意味です。人は悪いことをしてしまったとき、ついかくそうとしがちですが、この言葉は、そういった弱い気持ちをさらりと笑いにし、さとしてくれます。また、「石の上にも三年」ということわざは、がまん強く努力を続ければ、いつかは必ずなすとげられるという意味です。わたしたちが勉強や仕事に取り組む姿勢をきびしく教えてくれています。

この本では、ことわざを一ページずつ、五十音順に紹介しています。それぞれイラストとまんががついていて、ことわざをイメージ豊かに伝えています。また、実際の使い方を紹介する文章（例文）や、似た意味を持つ言葉（類語）、反対の意味を持つ言葉（反対語）、そのことわざと同じ文字が入った言葉（関連）も紹介しているので参考に使ってください。

どのページから読んでもかまいません。きつと、「なるほど!」「あるある!」「元気が出るね!」なんて思えるようなことわざに出合えるはずです。それから、ぜひ友だちに聞かせてあげたいなることわざもあるでしょう。ことわざの豊かな世界に親しみ、ふだんの生活の中でどんどん使ってみてください。





# 明日は明日の風が吹く

**意味** 明日になれば、今日とは違う風が吹くということから、先のこととはどうなるかわからないので心配しなくてもよいということ。なりゆきにまかせよう、明日のことは明日になってから考えようなどという意味合いで使われる。



# 頭かくして尻かくさず

**意味** 自分ではうまくかくしているつもりでも、実際にはかくしきれていないということ。雉が身をかくそうと草むらに頭だけをつっこみ、尾が見えているようすからできた言葉。悪いおこないや欠点がばれていることに本人が気づいていないときに使われる。



**例文** 今日は失敗ばかりだったけれど、くよくよしても始まらないよ。明日は明日の風が吹くさ。

**類語** 案ずるより産むがやすし、P13

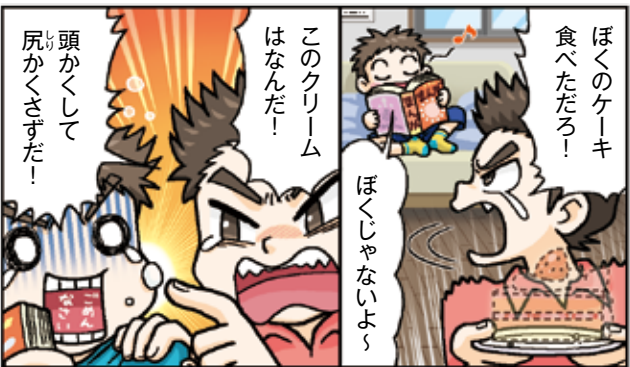
**関連** 「明日」明日の百より今日の五十（あてにならないものより、確実に手に入るもののほうがよい）



**例文** かくしたつもりでも、ばれられた。頭かくして尻かくさずだよ。

**類語** 柿を盗んでさねをかくさず（「さね」は種の意味）

**関連** 「頭」頭の上のはえを追い（人のことより、まずは自分のことをきちんとしなさい）





# 雨降って地固まる

**意味** もめごとがあったり、悪い出来事があったりしたあととは、かえって前よりよい状態になるということ。雨が降ると、地面はいつたぬぬかるんでしまうが、かわくとしつかり固まることからできた言葉。



# 案ずるより産むがやすし

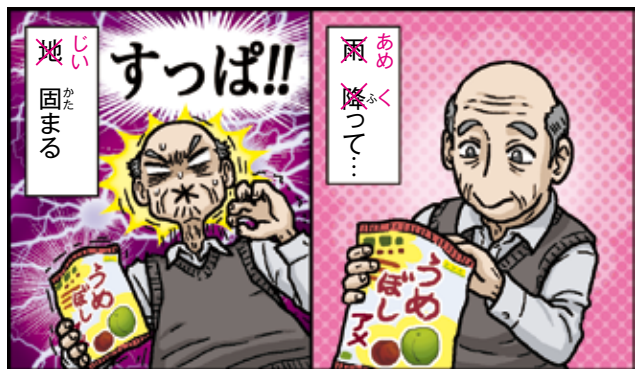
**意味** 物事を始める前はあれこれと心配しがちだが、思いきってやってみると、案外うまくできるものだという意味。子どもを実際に産んでみると、心配していたほどではないといわれることからできた言葉。思い悩んでいる人に勇気をあたえるときにも使われる。



**例文** 大げんかをしたあと、彼とは本音でつきあえるようになった。雨が降って地固まるだね。

**類語** 雨のあとは上天気

**関連** 「雨」雨が降ろうが槍が降ろうが（どんな困難があってもやりとげる気持ち）



**例文** 土曜日はピアノの発表会だったね。そんなに心配しないでも、案ずるより産むがやすしだよ。

**類語** 思うより産むがやすし

**関連** 「産む」鶯が鷹を産む（平凡な親がすぐれた子どもを産む）





# 馬の耳に念仏

**意味** いくら意見や注意をしても、いつこうに聞き入れようとせず、効果がなないこと。馬の耳元で阿弥陀仏の名をとんでも、ありがたみがまったく理解できないことからできた言葉。仏教の教派、浄土教では、阿弥陀仏の名をとねえると、極楽浄土に行けるとされる。

**例文** 息子にいくら勉強しろと言っても、聞く耳を持たない。馬の耳に念仏だ。

**類語** 猫に小判、P97／牛に経文、豚に真珠

**関連** 「馬」馬が合う（気が合う）



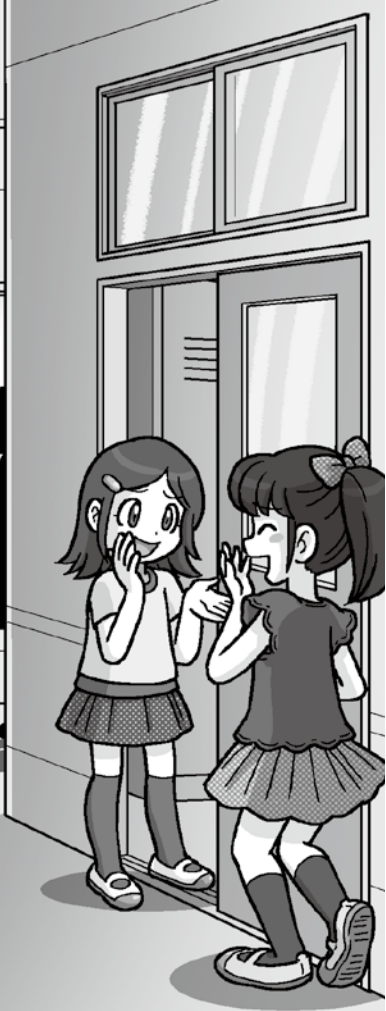
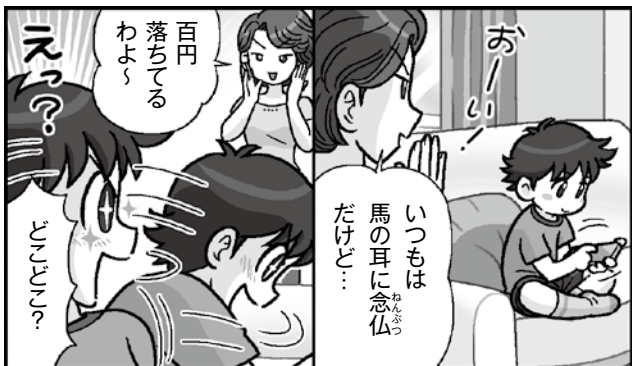
# うわさをすれば影がさす

**意味** 人のうわさをしていると、不思議と、話題にしていた本人があらわれるということ。 「影がさす」とは、その人の影や姿があらわれるという意味。人の悪口はつつしみなさいといういましめをこめて使われることが多い。

**例文** うわさをすれば影がさすではないが、あいつがひょっこりあらわれた。

**類語** うわさをすれば影

**関連** 「影」影も形もない（まったく姿が見えない。まったくあとをとどめない）



# 飼い犬に手をかまれる

**意味** ふだんからひいきにしたり、よく面倒を見たりしていた人に裏切られ、ひどい目にあうこと。思いがけず迷惑をかけられたり、傷つけられたりするときによく使われる。かわいがっていた犬に飼い主が手をかまれることからできた言葉。



**例文** かわいがっていた後輩の社員がライバル会社に転職した。飼い犬に手をかまれる思いだ。

**類語** 後ろ足で砂をかける／恩をあらで返す

**反対** 犬は三日飼えば三年恩を忘れぬ



# 蛙の面に水

**意味** どんなに非難されても、どんな仕打ちを受けても、何も感じずに平気なこと。または、そのようす。「面」とは「顔」のこと。水辺で生きる蛙の顔に水をかけても平気なことからできた言葉。ずうずうしくて厚かましい態度の人に対してよく使われる。



**例文** わたしがどんなに注意しても、あの子はけろりとしている。まるで蛙の面に水だ。

**類語** 豆腐にかすがいP76／糠に釘P94／沼に杭／のれんに腕押し

